

菊川市駅伝チームだより

令和6年10月30日



チーム目標「考え、学び合い、共に伸びる菊川市チーム」

駅伝レースを見て学ぶ

いよいよ駅伝シーズンになり、テレビなどでも大学や実業団のレースを放送するきかいが増えました。青春や人生をかけている真剣勝負から学ぶことも多くあります。その中で2つ紹介します。今後もいろいろな大会がありますので、ぜひ見て学びましょう。

【出雲駅伝】

大学三大駅伝の一つで、10月14日に行われました。目まぐるしくトップが変わる展開の中、常に上位に位置していた國學院(こくがくいん)大学が5区で先頭に立ち、最終6区で逃げ切り優勝しました。私が注目したのは、國學院大学のアンカーで主将の、平林選手です。平林選手がタスキを受けたとき、2位の駒澤(こまざわ)大学とわずか4秒差で、まもなく追いつかれます。駒澤大学のしの原選手は、平林選手より実力が上です。ラスト数百mの勝負では、しの原選手があっとうてきに有利です。そこで、平林選手は約10kmのコースの中ばんで早くもロングスパートをしかけ、最後まで逃げ切りました。平林選手の**作戦勝ち**です。また、それができると**きびしい練習を積み重ねてきたこと、自己管理能力が高くほとんどこしょう(けが)をしてこなかった**ことがそういう結果を引き出しました。そして、優勝インタビューで、チームメイトに感謝の言葉を言っていたことから、菊川市の目標と同じ「**考え、学び合い、共に伸びる**」ことができた結果であったことが分かります。



【箱根駅伝予選会】

これも大学三大駅伝の一つで、10月19日に行われました。正月に行われる本選の出場をかけた予選会です。前回の大会で10位以内に入った大学はすでに出場が決まっており予選会では1人約21kmを走った各大学上位10人の合計タイムで本選に出場できる残り10大学を決めます。ですから、10・11位が天国と地獄の分かれ目です。そして今回は、10位の順天堂大学と11位の東京農業大学の差がわずか1秒でした。10人合計210km(静岡～東京の間位のきより)以上も走っての1秒です。また箱根駅伝の常連校の東海大学は、大学内で10番目だった選手がゴールのわずか10m手前で倒れゴールできなかつたこともひびき、14位にしずみました。ある選手は「**こしょう者が多く、本来走るべき選手が走れなかつた**。この大学にいれば4年間箱根を走れると思っていた**甘えがあつた**。」と声をつまらせました。



目標達成に向けて、よりきびしく

「自己目標を達成させるための手立て」の振り返りで、「十分できた」「だいたいできた」の割合の合計が、7月末は約79%でしたが、9月末は87%まで増えました。**より自分にきびしく**していることが分かります。こういったことが、**走力・人間力・チーム力を伸ばして**いきます。今後さらに成長し本番に生かすことを楽しみにしています。

【文責：北原弘明(かんとく)】